

〔資 料〕

2019 年度人間健康学部スポーツ健康福祉学科入学生の
入学状況に関わる実態調査

東川 安雄¹・山崎 昌廣¹・工藤 隆治¹・村上須賀子¹・渡邊 満¹
武田 守弘¹・松尾 晋典¹・房野 真也¹・高田 康史¹・加地 信幸¹
河野 喬¹・森木 吾郎¹・鬼塚 純玲¹・前田 一篤¹

Survey on the Admission Situation of the Department of Sports, Health and Well-being New Students of Faculty of Human Health Science in 2019

Yasuo HIGASHIKAWA, Masahiro YAMAZAKI, Ryuji KUDO, Sugako MURAKAMI,
Michiru WATANABE, Morihiro TAKEDA, Sinsuke MATSUO, Shinya BONO, Yasusi TAKADA,
Nobuyuki KAJI, Takashi KAWANO, Goro MORIKI, Sumire ONITSUKA, Kazuma MAEDA

Abstract

The purpose of this research is to investigate students who entered the department of sports, health and well-being of faculty of human health science in April 2019 and to clarify the actual condition of various students' entrance examinations. As a result, increasing the number of examinees and strengthening public relations activities, etc. for recruitment of university studies have emerged as a challenge.

KeyWords

Admission situation (入学状況), New Students (入学生), Survey (実態調査)

緒 言

少子化傾向の影響を受けて18歳人口が減少傾向にある現代社会において、大学における定員確保並びに入学者に対する教育の質的向上は重要な課題であり、それらに対する積極的な取り組みが求められている。それらの取り組みを検討、企画、実施していくためには、入学生に対する継続的な実態調査が不可欠である。

前回、人間健康学部スポーツ健康福祉学科の2018年度入学生を対象とした調査を行い、入学生の様々な実態を明らかにした¹⁾。その結果をふまえ、本研究では、2019年4月に同学科に入学した学生を対象とした調査を行うとともに、2018年度入学生との比較を通して、入学者に関わる様々な要因の実態を明らかにすることを目的とする。

¹ 広島文化学園大学人間健康学部 (Faculty of Human Health Science, Hiroshima Bunka Gakuen University)

方 法

1. 調査対象者及び方法

調査対象者は、2019年4月に広島文化学園大学人間健康学部スポーツ健康福祉学科に入学した133名である。入学時のガイダンスにおいて調査目的、匿名性等について説明し、承諾を得たうえで調査票を用いた配票調査で実施した。

2. 調査内容

調査票は、希望するコース、卒業後の進路希望、人間健康学部スポーツ健康福祉学科を選択した理由、本学部・学科を知った情報源や進学先選択時の相談相手等、49項目で構成した。

3. データ処理

本調査によって得られたデータについては、基本的には単純集計(%)を用いるが、より詳細な分析が必要な場合はクロス集計を用いた。

学者数とその充足率は、学部全体で110.8%となり昨年度の結果を上回った。試験種別でみると、「AO」が125.0%、「推薦」が145.8%となり、それぞれ定員を充足した。しかし、「一般」及び「センター利用」は定員を充足することができなかった。一方、2018年度入学生でゼロであった「地域特別」では3名の入学者があり、「教育連携指定校」とともに大きな伸びがみられた。

2. 希望するコース

本学部の場合、入学した学生は2年次から「スポーツ健康コース」と「健康福祉コース」の2コースに分かれ、それぞれのコースの専門科目を履修していくことになる。2019年度入学生は、表2のように全体の88.0%(117名)が「スポーツ健康コース」を、12.0%(16名)が「健康福祉コース」を希望している。この結果は、ほぼ2018年度入学生と同様である。

表2 希望するコース (人)

	スポーツ健康コース	健康福祉コース	合計
2018	112	16	128
2019	117	16	133

結果と考察

1. 入学試験種別にみた入学状況

表1は、2019年4月入学生を入学試験種別にまとめ、2018年度入学生と比較したものである。入

表1 入学試験種別入学者状況

試験種別		定員	入学者数（人）			定員充足率（％）	
			2018	2019	差	2018	2019
AO		36	23	26	+3	100.0	125.0
スポーツAO			13	19	+6		
推薦	地域特別	48	0	3	+3	133.3	145.8
	教育連携指定校		9	22	+13		
	専門学科・総合学科特別		6	6	0		
	公募制（A日程）		6	0	−6		
	公募制（B日程）		5	3	−2		
	スポーツ特別		38	36	−2		
一般	A日程	18	16	14	−2	111.1	88.9
	B日程		4	2	−2		
	C日程		0	0	0		
センター 利用	前期	18	6	2	−4	44.4	11.1
	中期		1	0	−1		
	後期		1	0	−1		
合 計		120	128	133	+5	106.6	110.8

3. 卒業後の進路希望

表3のとおり、調査対象となった2019年度新入生のうち38.9%が「教員（保健体育）」を目指して入学してきている。次いで、「トレーナー・インストラクター」22.1%、「プロ選手」3.1%、「公務員（福祉系）」2.3%、「公務員（警察・消防）」2.3%等と続いている。2018年度入学生と比較してみると、全体的には同様の結果となっているが、「公務員（警察・消防）」や「プロ選手」を希望する者がやや減少し、卒業後の進路について「未定」と答えた者がやや増加する結果となった。

4. 併願した大学

表4は、2019年度新入生が併願した主な大学の結果を示したものである。133名のうち60名が他大学・専門学校（24校）を併願していた。2018年度入学生と比較してみると、体育・スポーツ系の学部学科がある広島経済大、環太平洋大、福山平成大を併願した者が同様に多かった。なかでも、環太平洋大学との併願率が3倍近くになっていた。一方、広島国際大を併願した者は1名であった。

5. 人間健康学部スポーツ健康福祉学科を選択した理由

入学希望者が受験するにあたって希望する学部学科を選択する理由を8要因34項目でとらえた。具体的には、「通学等（3項目）」、「経済（2項目）」、「学び（5項目）」、「環境（5項目）」、「他者（5項目）」、「資格取得（8項目）」、「情報（3項目）」、

「その他（2項目）」である。それぞれの質問について、「非常にあてはまる」から「まったくあてはまらない」の5段階評定で回答を得た。さらに、「非常にあてはまる」と「あてはまる」を「あてはまる」、「あてはまらない」と「まったくあてはまらない」を「あてはまらない」として集約し、さらに平均値を算出した結果が表5である。

全体的には、「あてはまる」（平均値が3.00以上）と答えている理由としては、「学び」や「資格」、「環境」に関する項目において高い値を示している。

「学び」に関しては、「健康」、「スポーツ」、「福祉」それぞれについて学べることに對する評価が高く、2018年度入学生の平均値を上回る結果となった。

「資格」については、2018年度入学生と同様、「保健体育教員免許」、「健康運動指導士」、「健康運動実践指導者」、「JATIトレーニング指導者」の資格取得を選択理由とする者が多い傾向にあった。

「環境」に関する項目も評価が高く、特に「スポーツ施設の充実」については2018年度と同様に高い値を示した。また、「大学の雰囲気」や「オープンキャンパスの雰囲気」、「教職員がフレンドリー」の平均値は2018年度入学生の結果を上回った。

その他の要因についてみると、「通学等」の中の「自宅から通学が可能」については、2018年度入学生と比較して「あてはまる」と回答した者の割合が減少し（56.3%→38.7%）、「どちらともいえない」が増加する傾向にあった。「経済」については「どちらともいえない」が多かった。

「情報」については、2018年度入学生と比較して「ホームページ」の平均値が高くなり、受験す

表3 卒業後の希望進路（%）

	教員	ソーシャル ワーカー	トレーナー・イ ンストラクター	公務員 (福祉系)	公務員 (警察・消防)	一般 企業	プロ 選手	大学院 進学	留学	未定	その他
2018	38.1	4.4	20.0	3.1	6.3	6.3	5.6	0.0	0.0	15.6	0.0
2019	38.9	5.3	22.1	2.3	2.3	1.5	3.1	0.0	0.0	23.7	0.8

表4 主な併願大学（人）

	広島経済大	広島国際大	広島修道大	福山平成大	環太平洋大
2018	13	7	7	5	4
2019	16	1	1	6	11

表5 スポーツ健康福祉学科を選択した理由(%)

	理 由	年	あてはまらない	どちらともいえない	あてはまる	平均値
通学等	自宅から通学が可能だから	2018	31.3	12.5	56.3	3.23
		2019	22.5	28.8	38.7	3.02
	交通の便が良いから	2018	27.3	35.9	36.7	3.08
		2019	31.9	39.3	28.8	2.96
	安芸郡坂町にキャンパスがあるから	2018	42.5	33.9	23.6	2.66
		2019	44.0	40.8	15.2	2.49
経済	呉市郷原町にキャンパスがあるから	2018	48.5	39.8	11.7	2.41
		2019	50.8	37.1	12.1	2.35
	学費が安いから	2018	28.1	46.1	25.8	2.93
		2019	43.9	37.9	18.2	2.60
	奨学金が充実しているから	2018	21.1	61.7	17.2	2.90
		2019	31.8	47.8	20.4	2.78
学び	健康について学べるから	2018	5.5	14.1	80.4	3.99
		2019	7.6	16.7	75.7	4.01
	スポーツについて学べるから	2018	2.3	4.7	93.0	4.51
		2019	3.8	9.1	87.1	4.52
	福祉について学べるから	2018	14.8	29.7	55.5	3.55
		2019	9.8	34.1	56.1	3.61
	部活動をがんばりたいから	2018	12.5	27.3	60.2	3.84
		2019	19.7	23.5	56.8	3.72
環境	大学の雰囲気が良いから	2018	8.6	60.2	31.2	3.27
		2019	6.8	53.0	40.2	3.42
	大学が綺麗だから	2018	6.3	44.5	49.2	3.55
		2019	6.8	43.2	50.0	3.61
	スポーツ施設が充実しているから	2018	10.2	47.6	42.2	3.38
		2019	8.3	57.6	34.1	3.33
	オープンキャンパスの雰囲気が良かったから	2018	1.6	23.4	75.0	4.16
		2019	6.0	27.3	66.7	4.00
他者	教職員がフレンドリーだから	2018	28.1	33.6	38.3	2.97
		2019	19.7	39.4	40.9	3.14
	大学の雰囲気の良いから	2018	9.4	55.4	35.2	3.27
		2019	12.1	55.3	32.6	3.30
	本学にいる先輩から誘われたから	2018	71.1	15.6	13.3	1.83
		2019	53.0	23.5	23.5	2.39
	保護者に勧められたから	2018	42.2	28.9	28.9	2.69
		2019	48.5	28.8	22.7	2.45
資格取得	担任の先生に勧められたから	2018	30.7	34.6	34.7	2.92
		2019	40.9	28.0	31.1	2.74
	部活の顧問に勧められたから	2018	38.3	21.9	39.8	2.91
		2019	47.7	18.2	34.1	2.61
	友人に誘われたから	2018	64.8	21.9	13.3	2.04
		2019	67.5	22.0	10.5	1.92
	取得できる資格が充実しているから	2018	3.1	11.7	85.2	4.16
		2019	2.3	22.0	75.7	4.21
情報	保健体育の教員免許を取りたいから	2018	17.2	16.4	66.4	3.87
		2019	15.1	21.2	63.7	3.78
	社会福祉士の資格を取りたいから	2018	41.4	35.9	22.7	2.69
		2019	45.5	34.0	20.5	2.53
	精神保健福祉士の資格を取りたいから	2018	48.4	39.9	11.7	2.41
		2019	47.7	37.1	15.2	2.37
	健康運動指導士の資格を取りたいから	2018	10.9	35.2	53.9	3.59
		2019	13.6	37.1	49.3	3.51
	健康運動実践指導者の資格を取りたいから	2018	9.4	38.3	52.4	3.56
		2019	14.4	37.9	47.7	3.45
	JATIトレーニング指導者の資格を取りたいから	2018	15.6	39.1	45.3	3.41
		2019	22.0	40.9	37.1	3.17
その他	初級障がい者スポーツ指導員の資格を取りたいから	2018	18.8	52.3	28.9	3.10
		2019	28.8	47.0	24.2	2.81
	キャンパス通信を読んで興味が出たから	2018	40.6	42.2	17.2	2.58
		2019	41.7	40.9	17.4	2.55
その他	ホームページを見て興味が出たから	2018	26.6	38.2	35.2	3.01
		2019	20.5	38.6	40.9	3.16
	LINEでの情報発信を見て興味が出たから	2018	64.1	29.7	6.2	1.98
		2019	64.4	24.2	11.4	2.06
その他	他の大学の受験に失敗したから	2018	75.0	9.4	15.6	1.75
		2019	83.3	6.8	9.9	1.50
	あまり他の大学と比べずに決めた	2018	23.4	26.6	60.0	3.42
		2019	22.0	26.5	51.5	3.52

る大学・学部・学科を選択する際の重要な情報源となっていることが窺えた。「LINE」については、2018年度生と同様に「あてはまる」と答えた者の割合が低い傾向にあった。

「他者」については、回答が分散する傾向にあった。

「その他」の「他大学の受験に失敗したから」を理由とする者は2018年度入学生と同様に極めて少なく、「あまり他の大学と比べずに決めた」と回答する者が5割を上回った。本学部を第一希望として選択した者が多い傾向にあることが明らかとなった。

6. 重要な他者

受験生は、さまざまな情報源をもとに必要な情報を収集して受験先を決め、受験に臨んでいるものと思われる。そこで、ここでは「本学部・学科を知った情報源」、「よく使うSNS」、「進路先決定時の相談相手」に焦点を当て、その実態を探ることとする。

1) 本学部・学科を知った情報源

表6のように、本学部・学科について知った情報源で最も多かったのが「本学パンフレット」

(46.6%)である。次いで、「本学オープンキャンパス」(32.3%)、「本学ホームページ」(33.1%)「先輩友人」(31.6%)「部活同顧問」(30.1%)、「進路指導先生」(24.8%)と続く。2018年度入学生と比較すると、「本学ホームページ」や「本学オープンキャンパス」、「高校内説明会」の割合が大きく増加する結果となった。

2) よく使うSNS

多くのSNSがある中で、入学生がよく使うSNSは、表7のように「LINE」が圧倒的に多かった。しかし、表5でみたように、「LINE」での情報発信が本学部・学科を選択することに必ずしも繋がっているとはいえない側面があり、さらに詳細な分析が必要であると思われる。

3) 進学先選択時の相談相手

表5でみたように、本学部・学科を選択した理由として「他者による勧め」は必ずしも高くなかったが、進路先を決めていく上での相談相手としては、2018年度入学生と同様に「保護者」が圧倒的に多かった。次いで、「担任先生」と続くが、「部

表6 本学部・学科を知った情報源（複数回答，％）

	本学パンフレット	本学TVCM	本学ホームページ	SNS	本学オープンキャンパス	高校内説明会	模擬授業	進学説明会
2018	35.9	0.8	17.2	0.8	10.2	6.3	0.0	6.3
2019	46.6	0.8	33.1	3.0	32.3	20.3	3.0	4.5

	進路指導先生	部活動顧問	先輩友人	家族親類	キャンパス通信	その他
2018	25.0	32.0	22.7	13.3	0.0	0.0
2019	24.8	30.1	31.6	9.8	0.0	0.8

表7 よく使うSNS（1番目，人）

	LINE	You Tube	Twitter	Instagram	Google+
2018	109	8	7	2	1
2019	57	6	3	9	0

表8 進学先選択時の相談相手（1番目，人）

	保護者	担任先生	部活顧問	進路指導先生	兄弟姉妹	友人	先輩	その他
2018	73	28	17	5	2	2	0	2
2019	79	28	10	2	2	6	1	2

活顧問」は減少し、「友人」がやや増加する傾向にあった（表8）。

4) オープンキャンパスへの参加状況

表9は、入学者のオープンキャンパスへの参加状況（参加した者の割合）をコース別に示したものである。両コースとも2018年度入学生より参加率が高くなっていた。入学試験種別でみると、「AO」や「スポーツAO」、「地域特別推薦」、「専門・総合学科推薦」で受験した者の参加率は非常に高かった。「スポーツ特別推薦」は参加者と非参加者が半々である。年明けにある入試で入学した者の参加率はかなり低いことが明らかとなった（表10）。

表9 コース別オープンキャンパス参加状況(人(%))

	2018	2019
スポーツ健康	63 (56.3)	78 (67.2)
健康福祉	11 (68.8)	12 (75.0)

表10 試験種別オープンキャンパス参加状況(%)

	2018	2019
AO	78.3	88.9
スポーツAO	84.6	77.8
地域特別	—	100.0
教育連携指定校	100.0	90.5
専門学科・総合学科特別	60.0	83.3
公募制（A日程）	66.7	—
公募制（B日程）	20.0	50.0
スポーツ特別	52.6	47.2
一般A	12.5	36.4
一般B	25.0	0.0
一般C	—	50.0
センター前期	33.3	—
センター中期	0.0	—
センター後期	0.0	—
全体	56.3	68.2

結 語

本研究は、2019年4月に同学科に入学した学生を対象とした調査を行うとともに、2018年度入学生との比較を通して、入学者に関わる様々な要因の実態を明らかにすることを目的とするものであった。今回得られた結果をもとに、学生募集という視点から若干の検討と提言を試みる。

1. 受験者数の増加

安定した入学者数を確保するために、受験者数の増加につながる取り組みとして、高校の保健体育教諭、運動部顧問を中心とした教師への情報提供、挨拶・訪問や働きかけを積極的に行ってきた。その成果の一端として、地域特別推薦や教育連携指定校推薦の入学者増を得ることができた。引き続き、高校関係者への働きかけを積極的・継続的に行っていく必要があると思われる。

2. 入学者数確保の目途

年明けに行われる「一般」と「センター利用」の充足率が大きな課題である。高校関係者によると、高校3年生が学年最後まで有意義な高校生活を送れるようにすることをふまえ、年明けにある大学入試センター試験等を積極的に受験するように指導している傾向にあるという。このような傾向をふまえ、「冬のオープンキャンパス」の開催等、高校生への情報提供や相談を積極的に取り組んでいく必要があると思われる。一方、安定した入学者数の確保を考えると、年内に終了する「AO」と「推薦」での受験者数を130～140名、合格者数を110～120名程度の目途としたい。

3. 高校訪問及び勧誘の強化、柔軟な対応

人間健康学部の特性から、特に高校の保健体育教諭、運動部顧問及び福祉系教諭を中心とした教師への挨拶・訪問や働きかけは不可欠である。2018年度は延べ89校の関係者に受験の働きかけを行たが、今後も積極的に取り組む必要がある。これまでと同様に、オフィサーとの連携のもと、学部教職員を含め、それぞれが動きやすいシステムを作り柔軟に対応（挨拶・訪問や働きかけ）する必要がある。

4. 広報活動の強化

2019年度は学部独自のパンフレットを作成して配布した。機会をとらえて、県内高校の保健体育科主任等に入試案内を行ってきた。また、強化クラブのホームページも5クラブで公開している。

今後は、ホームページを持たない強化クラブに対して早急にホームページを作成するよう働きかけるとともに、大学ホームページのトピックスへの積極的な投稿等を行い、高校生に対して情報提供やアピールをしていく必要があると思われる。

5. オープンキャンパスや高校内ガイダンスの充実

本学部・学科を知った情報源として、オープンキャンパスや高校内ガイダンスの伸びがみられた。2018年度は55校、2019年度は57校（2019年12月末現在）に出向いて「高校内ガイダンス」を行ってきた。このように、学部教員等が学校に出向き、体育・スポーツや福祉に関心がある高校生に、対面形式で直接情報を提供することの重要性を窺い

知ることができた。2019年度に行ったそれぞれの内容や方法を参加者・高校生目線で検討し、さらなる充実を図る必要があると思われる。

引用・参考文献

- 1) 東川安雄・山崎昌廣・山西正記・工藤隆治・村上須賀子・武田守弘・房野真也・加地信幸・高田康史・松尾晋典・河野喬・森木吾郎・鬼塚純玲（2019）2018年度人間健康学部スポーツ健康福祉学科入学生の入学状況に関わる実態調査. 広島文化学園大学人間健康学部紀要, 1: 73-79.